

流通部門における調達改革に向けた
ロードマップの公表について

平成31年3月29日
北海道電力株式会社

- 電力ネットワークの維持・運用にあたっては、これまでも地域特性を踏まえた設備形成や設備保全で様々な工夫を行いながら、低廉で安定的な電気の供給を行ってまいりました。
- 次世代電力ネットワークの構築にあたっては、再生可能エネルギーの最大限の導入を図りつつも導入拡大等に伴い増大するコストを抑制していく必要があります。このため既存電力ネットワーク等にかかるコストについて、更なる効率化やコスト削減に向けた取組の深掘が重要な課題となっています。
- このような状況の中、資機材調達コスト削減への取組の一つとして、「架空送電線」・「遮断器」・「地中ケーブル」の仕様を他の電力会社と統一し、仕様統一品の購入を増やすといった調達の工夫につなげる検討を進めており、この度、中長期的な方向性を取りまとめた「調達改革に向けたロードマップ」を作成したことから、公表いたします。
- 当社では、引き続き地域の電力ネットワークの安定的な運用に責任を果たすとともに、低廉な託送料金の実現を目指してまいります。




2. 仕様統一化に取り組む品目について

第11回 再生可能エネルギー大量導入・次世代電力ネットワーク小委員会(2018年12月26日)より抜粋

仕様統一化に取り組む品目

61

- 既存ネットワークコストの低減と、再エネの接続費用の低減を目指すため、まずは、調達額が大きく、新規の電源アクセスの際にも使用される以下3品目について、仕様統一化に取り組むこととしてはどうか。

対象品目	イメージ図	選定理由	統一化の方向性
架空送電線 (ACSR/AC)		<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 ・全国的な調達額が大きい。 <p>※主に超高電圧で使用される耐熱性の高いアルミ線(TACSR)も存在するが、電源アクセスの際に必要なケースの多い、本製品について検討。</p>	<p>仕様数2 → 全国大で統一</p> <p>※アルミ送電線には通常の仕様(ACSR)と、耐食性の高いもの(ACSR/AC)が存在するが、価格差が小さいため、耐食性の高い仕様に全国で統一。</p>
ガス遮断器 (66・77kV)		<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 ・各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。 	<p>10社個別仕様 → 全国大で統一</p>
地中ケーブル (6kVVCVT)		<ul style="list-style-type: none"> ・再エネ導入に係る新設工事でも追加的に使用される。 ・各社の仕様が異なっており、統一化による効果大きい。 	<p>10社個別仕様 → 全国大で統一</p>

3. 調達改革に向けたロードマップ

- 仕様の統一化に向けた検討を実施し、共同調達を含め最適な調達を行うことにより、スケールメリットを拡大し、コスト低減を図ってまいります。
- 2021年度以降は、今回の取組に対するPDCAを回しながら、更なる改善を図ってまいります。

	2018	2019	2020	2021	2022
仕様統一 (技術方)		<p>【架空送電線(ACSR/AC)】 ACSR系電線をACSR/ACに統一 【ガス遮断器(66kV・77kV)】 66kV・77kVのガス遮断器の各社個別仕様を統一 【地中ケーブル(6kVVCVT)】 6kVVCVTケーブルの各社個別仕様を統一</p>			
調達の工夫 (資材方)		<p>【架空送電線(ACSR/AC)】 ACSR/ACに統一し、スケールメリットを活かした調達を実施 【ガス遮断器(66kV・77kV)】 【地中ケーブル(6kVVCVT)】 仕様統一内容および市場動向を踏まえた、最適な調達方式を検討・実施</p>		<p>ローリングしながら効率化を図る</p> <p>PDCA → PDCA</p>	

4. 設備仕様統一に向けた取組

- 品目別の設備仕様統一に向けた取組み内容は以下のとおりです。

【仕様統一】

架空送電線 (ACSR/AC)	ACSR※ ¹ 系電線としては、一般的に使用してきたACSRと、より耐食性が高いACSR/AC※ ² があるが、スケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に全国大でACSR/ACに統一。
ガス遮断器 (66kV/77kV)	メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に66kV・77kVガス遮断器※ ³ の各社仕様を統一。
地中ケーブル (6kVCVT)	メーカー製造工程の効率化やスケールメリットによる価格低減に向け、2019年度末を目途に6kVCVTケーブル※ ⁴ の各社仕様を統一。

【具体的な取組内容・施策】

架空送電線 (ACSR/AC)	<ul style="list-style-type: none"> ACSR系電線にはACSRとACSR/ACがあるが、それぞれのスペック等を比較するなどして、全国大でACSR/ACに統一することによる不具合がないかを検証。 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についてもACSR/ACで対応していく。
ガス遮断器 (66kV/77kV)	<ul style="list-style-type: none"> 各社の現状仕様を把握し、標準仕様を検討することでスケールメリットを拡大する。 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。
地中ケーブル (6kVCVT)	<ul style="list-style-type: none"> 各社の知見を反映した試験方法、材質等の各社個別仕様の取捨選択を実施し標準仕様を設定。 新設のみならず、設備更新の機会を捉えて、既設についても新仕様で対応していく。

※1：鋼心アルミより線、※2：アルミ覆鋼心アルミより線

※3：ガス遮断器（GCB）、※4：トリプレックス形架橋ポリエチレン絶縁ビニルシースケーブル

5. 調達工夫（1）

- 設備仕様の標準化による品目別の市場変化を踏まえ、調達コスト削減に資する「新規取引先の拡大」や「まとめ発注（共同調達を含む）の拡大」などに取り組んでまいります。
- また、取組効果を確認する指標を設定し、P D C Aを回しながら取組みを進めてまいります。
- なお、次スライドに記載した発注施策の実施率を指標の一つとしており、品目・市場に応じた最適な施策を実行し、更なる調達コストの削減を目指します。

分類	項目	説明（年度比較）	実績値 （2018年度時点）			目標値 （2022年度）		
			ACSR /AC	GCB(66・ 77kV)	CVTケーブル (6kV)	ACSR /AC	GCB(66・ 77kV)	CVTケーブル (6kV)
仕様 統一 状況	統一化品 調達割合	仕様統一品の購入（個別仕様品の排除）によりコスト削減を目指す	21.3%	－%	－%	100%	100%	100%
競争 拡大	競争発注 比率	競争環境構築に・維持よりコスト削減を目指す	84%	89%※1	94%※1	100%	100%	100%
	取引先拡大数※2	競争環境の活性化を図る	4社	5社	6社	1社以上の拡大		
調達の 工夫	施策実施率※3 (施策実施数)	各社で実施している調達の工夫を展開し、コスト削減を図る	83% (5/6)	67% (4/6)	100% (6/6)	100% (6/6)	100% (6/6)	100% (6/6)

※1：仕様統一化前の品目の数値

※2：実績値は2018年度時点の取引先数を記載

※3：次項に示す「新規取引先拡大」、「まとめ発注」等の6項目の発注施策の実施率

6. 調達工夫（2）

- 仕様統一結果を踏まえ、以下のような発注施策（買い方）について、品目毎に妥当性を判断しながら適用を検討・実施し、コスト低減を進めてまいります。

【発注施策および現在の実施状況】

発注施策 (買い方)	内容	品名		
		ACSR/AC	GCB (66/77kV)	CVT (6kV)
①新規取引先拡大	競争環境の活性化のため国内外から新規取引先を開拓	未実施	未実施	実施
②まとめ発注	契約時期を合わせて調達量を増やしスケールメリットを得る（共同調達を含む）	実施	実施	実施
③早期発注	取引先の生産計画平準化を目的として概略設計の状態ですら早期に発注	実施	実施	実施
④シェア配分競争	複数の案件をまとめて提示し、競争の結果により取引先にシェアを配分	実施	実施	実施
⑤コスト低減提案の募集	技術提案に限定せず、調達方法など調達全般に関するコスト低減提案を募集する。	実施	実施	実施
⑥複数年契約	通常の契約期間を長期化することで優位な条件にて契約する施策	実施	未実施	実施
施策実施率 (施策実施数)		83% (5/6)	67% (4/6)	100% (6/6)